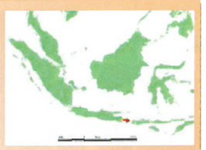
あの町 この町

Vol.20
海外編

バリ島　今・昔
（インドネシア共和国）



十月初旬友人数名とバリ島に行った。2016年にはここで湖沼会議があるようだ。昨年空港が改築されたので変容ぶりにも興味があった。三年ぶりに到着したターミナルビルは以前の南国情緒は全く無くなり大空港に変わってしまっていた。頼んでおいた車との合流場所が混み合って以前より乗継に時間がかかった。

空港を離れクタ地区のホテルに向う途中、運転手から「バリにもジャラン・トル（有料道路）ができた」と聞いた。翌日、早速ヌサドゥア海岸まで利用した。海岸縁を走るこの道のおかげで時間が大分短縮されたようだ。夕方タナロットへ、夕日見物に行く。着いたところは以前行った風景と全く違った。海の上に立つ寺院が橋で陸続きになっている。私の頭の中で未だこの違いの解決ができない。極め付けは、高級コーヒーと言われる「コピ・ルワック」の販売所がバリに出現したこと。今回はズレを感じたバリ島旅行だった。

ヌサドゥア海岸

タナロットの夕日

地域、他団体との絆を確信！
第6回オオバナミズキンバイ除去大作戦

9月12日（日）当認定NPO法人びわこ豊穣の郷が、3年前に夏原グラントからの助成金を基に立ち上げた「オオバナミズキンバイ除去プロジェクト」の第6回目となる「オオバナミズキンバイ除去大作戦」を実施しました。今回は、地域からの声を受けて、新守山川の作業となりました。この日はプロジェクトの構成団体のひとつ、国際ボランティア学生協会が琵琶湖全域で400名以上の規模で特定外来植物の除去を企画されその内の約20名がこの除去作業に駆け付けてくれました。除去が進むこともさることながら、それぞれの団体が連携してひとつの事に当たることの素晴らしさを感じずにはいられない一日となりました。この絆を絶やすことなく、これからの活動に繋げられるよう、ますますしっかりとした組織づくりと、運営の必要性を強く感じました。

新守山川の作業の様子

ほたるの森のなかまたち

ほたるの森に新しいなかまが加わりました。
高さ3mのモミの木です。12月5日に行われた水辺の楽校秋編でクリスマスツリーに使用するため購入したものです。みんなの手で美しく飾り付けられ、ほたるの森資料館の展示室に設置しています。屋外の円形ステージで飾り付けを行っていたときは、それほど大きさを感じていませんでしたが、いざ展示室に入れてみると、天井に届きそうな高さで、圧倒的な存在感があります。
室内の雰囲気も華やかになりました。今後このモミの木は、ほたるの森に移植し、来年の水辺の楽校で活躍してくれる予定です。

手作りの飾りが素敵なツリー♪

水生生物調査
～親子で秋の水生生物を見つけよう！～

11月28日(土)晴れ　午後1時より市内の河川4ヵ所(吉川川、目田川、ミソウチ川、井上川)を親子で水質調査及び水生生物の調査を行ないました。川に入れば親も子どもも時間の経つのも忘れ、生きもの探しに一生懸命でした。

採取してきた生きものを図鑑で調べたり、講師の先生に聞いたり、顕微鏡の様子を拡大モニターに映し、観察しました。中でも水生昆虫のヒラタドロムシの腹部を拡大して見ると、6対のエラと6本の足が踊るように動いていて、驚き感動し、これが昆虫だということがよく分かりました。他に魚、貝、昆虫、水草類が多く採れ、守山の水辺環境の豊かさを感じとる事ができました。

子どもたちは「川に予想以上のゴミがあり生きものが棲めなくなる。でも水はきれいだった。」「学校では生物学習がなかったので、川に入り、生きもの採りなど、貴重な体験ができて良かった。」と想いを語ってくれました。

講師からは「水生生物の調査では、観察し印象に残った川や、生きものの写真を撮っておくとよい。今回、調査場所によるのかもしれないが、ゲンジボタルの幼虫が見つからなかったのが残念だった。目田川にはホタルの止まれる河畔林が必要。子どもたちから大人までもっともっと守山の川に関心を持って欲しい」とのコメントをいただきました。

大きく映った顕微鏡の画像に見入る参加者

水辺の楽校（秋編）を開催しました

12月5日（土）に、水辺の楽校秋編を市民運動公園内のほたるの森と円形ステージ周辺で実施しました。この日は朝から良いお天気でとても温かく、「森の探検」では宝さがしやスタンプラリーを楽しんだり、親子で木の実などを使った置き物やクリスマス飾りを作りました。その後、出来上がった飾りは、お父さんたちの協力でモミの木にきれいに飾り付けられました。そのすばらしい出来上がりに、参加者はもちろん、スタッフまでもが大喜びでした。このツリーはしばらくの間、資料館の展示室に設置され、来館者に喜んで頂けました。企画立案から後片付けまで、お手伝いいただきました皆さん、ありがとうございました。

♪森の探検！葉っぱの笛で大盛り上がり♪

おらが自慢の水辺探訪
水辺百選講座・野洲川沿いを巡りました！

水辺百選講座も第6回目になる今回は、初めてバスでの探訪となりました。11月1日（日）参加者17名はまず蜊江神社（地点No.58）を訪れました。季節が外れた菖蒲池には水はありませんでしたが、神仏混淆が保たれている神域で、鰐口や梵鐘が軒に掛かっていて、地蔵堂が仏教寺院であることが感じられました。明治の廃仏毀釈の嵐をどのようにして免れたのでしょうか。バスは右手に三上山を眺めつつ川田大橋（地点No.62）を渡り、野洲川田園空間博物館へと向かいました。ここでは野洲川改修の歴史と、その中で反対期成同盟の人々がどのように苦渋の選択をしたかを、鑑賞したDVDから学びました。

地元の方から神社の整備のお話を伺いました

蜊江（つぶえ）神社に到着！

野洲川放水路下流を眺めながら新庄大橋（地点No.77）を渡り、到着した、びわこ地球市民の森（地点No.72）では、シイの実を拾って、生でもおいしく食べられることを実感しました。鮎家での昼食後に訪れた鹿嶋神社（地点No.80）では地元住民の方の手で整備された神域を見て、今でも少量ではあるが透き通った水が出ており、別にポンプアップしている水と比べてもきれいであることを現認しました。15時にバスは市役所に戻りましたが、天候に恵まれ、快適な1日となりました。